

## 今日のトピック 豪ドル相場の先行きは？

# 景気、国際収支などは豪ドルに追い風

### ポイント1 成長率は緩やかに加速しよう 雇用の改善と低金利が支え

#### (1) 景気

- 2016年10-12月期の豪州の実質GDP成長率は前期比+1.1%、前年比で+2.4%となり、前期のそれぞれ▲0.5%、+1.9%から加速しました。資源セクターの不振を、堅調な非資源セクターが補う構図が続いています。
- 景気の拡大に伴い、雇用も底堅く推移しています。17年3月の雇用者数は前月比+6.1万人、豪州準備銀行（RBA）が重視するトレンド値（月ごとの変動を均した政府の公表値）も同+1.6万人でした。一方、失業率は前月比横ばいの5.9%でした。求人広告件数が増加傾向にあることなどから、労働市場は今後も改善基調を維持すると考えられます。
- 雇用増や低金利に支えられ、非資源セクターは今後も堅調な推移が見込まれます。加えて、資源セクターも、資源価格の持ち直しにより回復に向かうと見られることから、豪州の経済は今後、緩やかに拡大ペースを速めると予想されます。

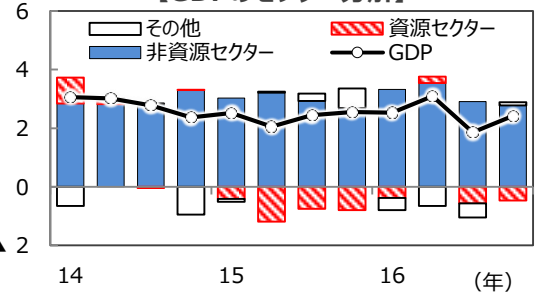
#### (2) 物価

- 17年1-3月期の消費者物価上昇率は前年同期比+1.9%となり、前期の+1.6%から加速しました。原油価格上昇の影響によるところが大きいと考えられます。賃金が依然として伸び悩んでいることなどを踏まえると、原油価格上昇の影響が一巡するにつれ、物価の上昇は落ち着くと考えられます。

#### (3) 金融政策

- 物価上昇率がRBAの目標値である+2%に接近してきた半面、失業率の改善がやや鈍ってきました。このため、RBAは当面、政策金利を現行の1.50%で据え置くと予想されます。

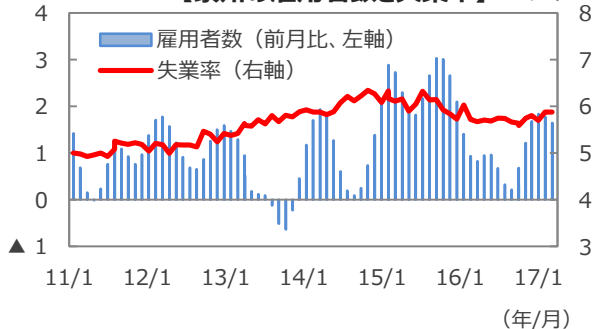
(前年比、%) 【GDPのセクター分解】



(注) データは2014年1-3月期～2016年10-12月期。非資源セクターは家計消費、政府消費、住宅投資、非鉱業投資、サービス純輸出。資源セクターは鉱業投資、財純輸出。その他は政府投資や在庫投資など。

(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

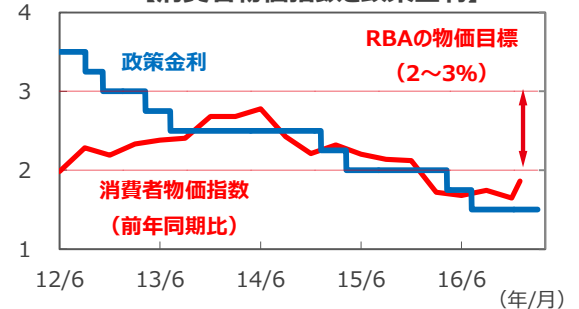
(万人) 【豪州の雇用者数と失業率】 (%)



(注) データは2011年1月～2017年3月。雇用者数は政府公表のトレンド値。

(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

(%) 【消費者物価指数と政策金利】



(注1) 消費者物価指数は2012年4-6月期～2017年1-3月期。消費者物価は異常値をつけた項目を除外したトリム平均値。

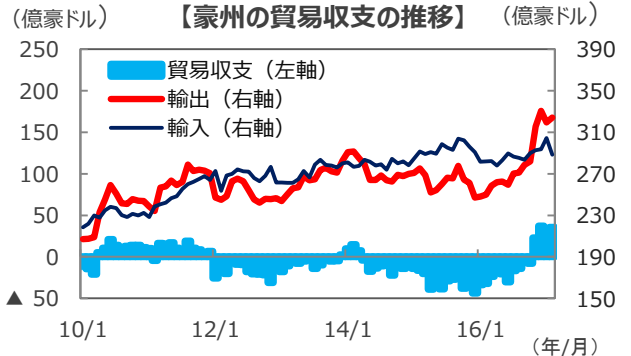
(注2) 政策金利は2012年6月30日～2017年4月25日。

(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

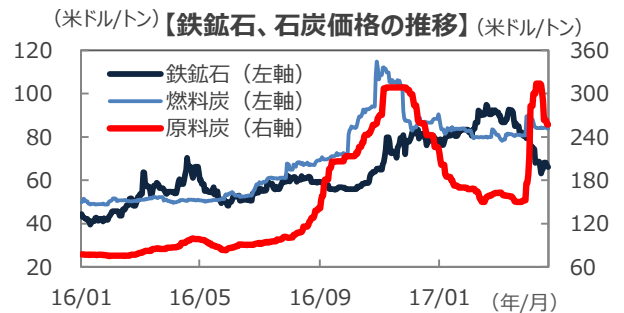
## ポイント2 改善著しい貿易収支 中国向け資源輸出が急拡大

- 17年2月の豪州の貿易（財サービス）収支は35.7億豪ドルの黒字となりました。16年11月以降4カ月連続の黒字です。しかも、黒字幅としては、16年12月に記録した37.0億豪ドルに次ぐ史上2番目の規模となります。
- 貿易収支の改善により経常赤字も縮小しつつあります。資源価格が大きく下振れしない限り、18年までに、73年以来となる黒字を計上する見込みです。
- 豪州の主力輸出品である鉄鉱石の価格は、中国国内での増産の影響で、今年2月下旬のトン当たり90ドル台から足元、同60ドル台まで下落しました。中国の鉱山会社の損益分岐点が同70ドル前後と見られることを考慮すると、そろそろ価格の下落には歯止めがかかる公算が大きいと見られます。
- もう一方の輸出主力品である石炭の価格は、豪州を襲ったサイクロンの後遺症（毀損した輸送設備の復旧、フル稼働までに時間がかかると見られている）もあり、堅調に推移する見通しです。



(注) データは2010年1月～2017年2月。貿易収支は輸出から輸入を引いたもの。輸出入は財およびサービスの合計。

(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



(注) データは2016年1月4日～2017年4月25日。

(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

## 今後の展開 堅調な展開が見込まれる豪ドルの対円相場

- 豪ドルの対円相場は、中国での需給改善による鉄鉱石や石炭等の資源価格の持ち直しを受け、昨年6月下旬を当面の底に戻り歩調を辿ってきましたが、足元では騰勢一服となっています。
- ①豪州経済の緩やかな拡大、貿易収支の改善（黒字転換）、②RBAと日銀の金融政策の方向性の違い（RBAは中立姿勢維持の見通し、日銀は緩和姿勢継続）、③資源価格の持ち直し等を踏まえると、今後も豪ドルの対円相場は底堅く推移すると予想されます。先進国の中で豪州の利回り水準は相対的に高く、豪ドルや豪州債等は投資対象として魅力が大きいと考えられます。



(注) データは2015年3月2日～2017年4月25日。

豪ドルは対円レートの推移。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**ここもチェック!** 2017年4月 4日 豪州の金融政策は引き続き据え置き (2017年4月)  
2017年3月30日 改善が進む豪州の景気と国際収支、豪ドルも堅調見通し

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。